［研究協議会］

国語科における生成AI活用の可能性と課題

基調講演
酒井　邦嘉（東京大）
シンポジスト
大井　和彦（信州大）
渡邉　光輝（お茶の水女子大附属中）
コーディネーター　記録
安部　朋世（千葉大）　**小沢　貴雄**（筑波大附桐が丘特別支援）

●進行等について　　**安部　朋世**

話を伺っていて、生成ＡＩが不正確な回答をすることで生徒の意見が活性化することもあるのかと感じた。登壇者同士の協議の後、フロアから意見・質問を受ける。

●研究協議

【酒井先生への質問】

渡邉　ＡＩを使いこなす力は何か。

酒井　使うことを前提にせず、使わないことが重要。

大井　生成ＡＩに対する社会的制約についてどのように考えているか。

酒井　そもそも機械は考えない。ＡＩに判断を委ねることは危険であり、徹底的な制約や規制が必要である。

【大井先生への質問】

渡邉　「人格的存在として捉える」とあるが、どういうことか。

大井　メタ認知的な視点で考えて、人格的存在ではないんだということを逆接的に意識させたかった。

酒井　生成ＡＩとコミュニケーションが取れるという表現自体に疑問を感じるが、どう考えているか。

大井　生成ＡＩを使いこなすスキル等の以前にある人間性の問題と捉えている。

【渡邉先生への質問】

大井　ＡＩの位置付けについて、どのように生徒に指導しているか。

渡邉　今回紹介した実践では、生成ＡＩの癖・特性を理解することに重点を置いて指導している。

酒井　生成ＡＩは今までの電子機器とは全くの別物。電子機器としての「ＡＩに考えさせる」という表現はおかしい。

渡邉　ＡＩの回答は自分を映す鏡。正しいことを表示しているとは限らないのに、ＡＩの回答が妥当と感じるのはなぜかを考える対象物として捉えている。

安部　無自覚に生成ＡＩを擬人化していることに気付かされた。学習者も使っているが現場ではどう指導していくか。

【フロアからの質問】

フロア　書くことのできない学習者への支援のためのツールとなるとも考えられるが、メリットは何一つないか。

酒井　なぜ書けないのかを正確に分析することが必要。機械任せにはせず、対人間の教育を担っている教師の本分を忘れず指導につなげることが大事。

フロア　脳科学者のなかで、生成ＡＩについて肯定している方はいるか。

酒井　現在のＡＩは、人間を対象とする脳科学及び言語学とは断絶している。

●まとめ　　**安部　朋世**

生成ＡＩの学校現場における活用は、試行錯誤の段階である。国語教育が大切にしている、人との関わりの中で言葉の学びがあることを改めて考えることができた。